

## 香川大学医学部附属病院に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] アミノ酸含有総合電解質輸液処方患者に対する投与速度適正化への取り組みが患者アウトカムに与える影響

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 香川大学医学部附属病院 薬剤部 田井達也

[研究の目的]

環境菌である *Bacillus cereus* は、カテーテル由来血流感染(CRBSI)の代表的な原因微生物です。香川大学医学部附属病院(当院)では、アミノ酸含有総合電解質輸液が投与開始から終了までの時間が8時間を超えると *Bacillus cereus* 菌の増殖が確認され、菌血症のリスクとなる報告を参考に、2020年5月より、アミノ酸含有総合電解質輸液処方患者に対して、オーダー時に注意喚起コメントを追加し、注射室所属薬剤師、病棟薬剤師、病棟看護師などと共有のうえ処方医へ確認を行う投与速度適正化の体制を整えました。今回、本取り組みが患者アウトカムに与える影響を検討します。この研究によって取り組みによる効果等が検証され、アミノ酸含有総合輸液適正使用の向上に役立つことができると考えています

[研究の方法]

○対象となる患者さん

香川大学附属病院に入院された患者さんで、対象期間：2020年5月1日から2022年4月30日の間に、1)アミノ酸含有総合輸液が処方された方、2) *Bacillus cereus* が血液培養陽性となった患者

○利用する検体・診療情報(電子カルテの情報)

診療情報：年齢、性別、身長、体重、血清クレアチニン (Serum creatinine : Scr)、

患者背景：病歴 [糖尿病, 固形癌, 血液癌]、抗がん剤、糖尿病薬、ステロイド、免疫抑制剤 (タクロリムス、シクロスポリン、ミコフェノール酸モフェチル) の内服歴

・アミノ酸含有総合電解質輸液処方の患者さんに対する投与速度適正化率

[情報の管理について責任を有する者]

香川大学医学部附属病院 薬剤部 田井達也

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる

情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報を利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院薬剤部 担当者 田井達也

電話 087-891-2314 FAX 087-891-2318